

2011 文化で滋賀を元気に！賞 受賞者について

文化・経済フォーラム滋賀では、「文化活動を通じて滋賀を明るく元気にしているなど、特徴ある貢献を行っている団体又は個人に対して、感謝と今後の活動を期待して表彰する」ため、「文化で滋賀を元気に！賞」を創設しました。このたび「2011 文化で滋賀を元気に！賞」を募集しましたところ、県下各地から 88 件の推薦応募がありました。

応募数の多さに驚きを感じましたが、それだけ県下各地で地道に文化活動をしている団体・個人が多いということであり感動を覚えます。

まず選考委員5名で書類選考を行い、慎重審査のうえ、大賞をはじめ6件を選び、2個人、4団体が入賞しました。

(講評執筆者：「2011 文化で滋賀を元気に！賞」選考委員会 石丸 正運)

記

【表彰概要】

■表彰の種類

(1) 文化で滋賀を元気に！各賞

文化で滋賀を明るく元気にし、活力あふれる地域社会の実現に特徴ある貢献を行っている団体または個人(若干名)

(2) 文化で滋賀を元気に！大賞

(1)の受賞候補者のうち最も評価された団体または個人(1名)

(3) 各賞の名称は、推薦者からの提案に基づき決定

■募集期間 平成 23 年 9 月 8 日～11 月 8 日

■候補者の推薦 募集期間内に推薦書を文化・経済フォーラム滋賀事務局に提出。自薦、他薦は問わない。

■選考

5名の委員からなる選考委員会で審査を行い、文化・経済フォーラム滋賀の代表幹事が決定。

選考委員	木村 至宏	(成安造形大学附属近江学研究所長)	石丸 正運	(美術史家)
	中村 順一	(公益財団法人淡海文化振興財団理事長)	南 千勢子	(ピアニスト)
	饗場 貴子	(大津市教育委員)		

大 賞 (まちおこし文化賞)



べんがら座



余呉べんがら座 主宰 横山義淳 氏/ 長浜市余呉町

1996(平成8)年に県職員を退職し、琵琶湖に比して、真珠に例えられる余呉湖のある山村余呉の町おこしに取り組む。1999(平成11)年に第1回余呉創作オペラ「余呉の天人」を余呉文化ホールで公演。自ら余呉オペラ事務局、脚本・演出・監督のプロデュースをかってで、総計136名を動員する。2011(平成23)年5月に第4回余呉創作オペラ「菊石姫」を開催した。余呉オペラを以てまちおこしに多大な貢献をし、それに伴って大人・子どもの合唱団の設立や「べんがら座」のオープンなど文化で地域の活性化にはたした試みはすばらしいものがあるところが評価される。 問合せ べんがら座(電話 0749-86-2738)

横山義淳氏プロフィール

1936(昭和11)年生まれ。残景寺住職。小劇場とギャラリーの「べんがら座」主宰。

■主な活動

1999年 第1回余呉創作オペラを公演。
以後2011年まで4回の公演を行う。
2000年 オペラ合唱団「ゆきんこクワイア」結成
2004年 子ども合唱団「森の子コーラス隊」結成
2009年 俳句大会の復活。第1回余呉俳句大会開催

■受賞歴

1999年 北近江浪漫交流圏委員会
「北近江まちおこし論文」で最優秀賞受賞



図書館一〇〇年灯火の文化賞

こほく 北図書館長 とみたてるひこ
江北図書館長 富田光彦氏 / 長浜市木之本町

富田さんが理事長兼館長をつとめる公益財団法人江北図書館は、滋賀県で最古の図書館で全国でも数少ない私立図書館である。2007(平成19)年10月に創立100周年記念式典を開催。小さな図書館であるが貴重な図書を所蔵し、苦労に苦労を重ね、幾多の風雪に耐え、今なお地域に脈々と息吹く図書を通しての文化を育んでいる姿は評価される。

問合せ 江北図書館(電話 0749-82-4867)



キャラクター文化賞

アミンチュプロジェクト びわ湖放送&藤井組 / 県全域

びわ湖放送の番組でキャラのユニークさが注目を集めているアミンチュ(淡海人)プロジェクトは、すでにメディア関係でいくつかの賞を受けている。地域テレビ、びわ湖放送での発信は、県民自身がボランティアなどで積極的に参加している。

「知ったかぶりカイツブリ」の番組上の活躍をはじめ、県内各地のキャラクター20体を主演にした映画「笑ってバカース」も全国的な着ぐるみキャラのブームの中で、キャラの聖地滋賀を強力に発信する試みが成功しているところが評価される。

問合せ 藤井組[株式会社まちおこし] 藤井(電話 077-514-3956)



ふれあい景観文化賞

ふれあい鯉のぼり祭「真野」実行委員会 / 大津市

鯉のぼり祭は全国各地で見られるが、手作りの鯉のぼりをもとに子どもたちの健全な育成と親子、地域の絆を深め、潤いのある郷土づくりをめざして、14年間取り組まれてきた。

真野川堤防と自然景観を生かし、老若男女約1000人が参加して作り上げる地域イベントとし「真野の元気」ひいては「滋賀の元気」の発信。地域に根ざした活動であり、住民各層参加による盛り上げは継続と発展性が期待される。

問合せ 大津市真野支所 岡本(電話 077-572-1164)



ラッピングトレイン文化賞

京阪電気鉄道株式会社大津鉄道部 / 大津市

車体のラッピングは石坂線の注目度を日増しに高め、撮り鉄の人気ものぼり調子である。沿線愛好者の活動にも協力し、石坂線21駅の顔づくりグループが募集する「21文字の青春メッセージ」の優秀作品等は車体及び車内にラッピング掲載され、毎年卒業シーズンに走る光景は全国各地から人気を集めている。成安造形大学などと連携した各種イベントや文化事業の華やかな宣伝ラッピングは、情報発信のみならず私たちの目を楽しませてくれており、ラッピングトレインの草分けとして地域鉄道の一層上の活性化が期待できる。

問合せ 京阪電気鉄道(株)大津鉄道部営業課 伏木(電話 077-522-4521)



地域映画文化賞

ひょうたんからKO-MA / 近江八幡市

激動期を体験した人々の思いは時宜を得て記録に止めておかないと失われてしまう。近江八幡市内で地域活性化に取り組み、地元のお年寄りの体験を次世代に伝えようとドキュメンタリー映画を製作する。

「おうみ未来塾」から生まれ、「映画」「コンサート」などアートの手法と「まちづくり」「地域再生」活動を融合させ、地域の潜在的魅力の発掘につとめているところが評価される。

問合せ ひょうたんからKO-MA 藤田(電話 0748-31-0800)